

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 幸輝会	代表者	国富 隆夫	法人・ 事業所 の特徴	生活に『充実感』が得られるような支援提供を目指す』を事業目標とし、ご利用者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、一人ひとりに合わせて「通い」「訪問」「宿泊」といった各サービスを検討するように心掛けています。生活や暮らし全体を通して『困っていることは何か?』『生活を成り立たせる為に必要なことは何か?』を見極め、柔軟なサービス提供を行っています。
事業所名	かたらい (小規模多機能型居宅介護)	管理者	岡田 真		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	6人	人	人	人	1人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価で話し合った目標が達成できるよう、個々が設定された目標を定期的に確認しながら行動に移していく。 アンケートを実施し、事業所の質の向上に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価の目標に対する結果として達成した目標もあったが、定期的な振り返りや考察が出来ていなかった。 また、設定した目標に対して「日々の業務が多忙なため…」という意見もあり、日々の業務の効率化を検討する必要があると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で積極的に取り組んでいる姿勢が見られ良い結果が出ている項目も多いと思うが具体的になっていない所もあるように思う。 テーマが多すぎる。順位を付けて毎月確認し上位のテーマから順に取り組んでみては? 評価の基準が「よく」「あまり」など主観的な表現で少し曖昧な感じがするので、「0~30%」「40~60%」などの数値の表示にしてみてもいいのでは? 家族・介護者との関係作りのための配慮について「あまりできていない」の回答が11名は多い。業務多忙のなか職員の増員が無理なら連携強化や職務の効率化など対応策を考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 備品の整理整頓を行い、業務の効率化を図る。 職員一人一人が外部の研修に参加し、スキルアップを目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 季節感の感じられる空間になるよう、フローアをご利用者と一緒に飾り付けをおこなったり、ご利用者にとって温かみのある居心地の良い空間を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員だけが作成するのではなく、ご利用者が出来る手作業を取り入れながら、飾り付け(壁画など)を作成した。また、ご利用者の目の止まりやすい場所に壁画を飾ることで、ご利用者が季節感を感じやすいよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しフロアが狭いと感じるが利用者と一緒に季節感のある飾りつけをしていたり、それぞれが一生懸命やりたいことに取り組む姿もあり今のままで安心安全にできる場だと思う。駐車場の一部に小さなベンチでもあれば散歩や会話を楽めるのでは? 「居心地の良い」というフレーズが毎年使われているが、何が居心地を悪くしているかを話し合ってみる必要があるのでは? 整理整頓が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、担当職員を割り当て、ご利用者と一緒に季節や行事に関連した壁面制作を行い、温かみのある空間づくりを行っていく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策をとりながらではあるが、閉鎖的な事業所にならないよう、地域のボランティアの受け入れや子供たちとの交流を継続的に行えるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は定期的に歌や手芸のボランティアの方に来ていただき、ご利用者からも喜びの声が聞かれた。また、近隣の小学校や高校の慰問があり、子供たちとの交流も図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の慰問で利用者との交流があるのは子供達も福祉について学べて良かったと思う。 ・地域とのコミュニケーションを大切にすることで在宅介護の支援に協力を得ることが出来ると思う。 ・事業所は知られているが小規模多機能の内容をもっとアピールしては？ ・介護事業の説明会を定期的に開催しては？行政にはできない民間ならではの計画を。 ・コロナ禍で従来行事が出来ていないが、「相談窓口」や「相談強化日」などを設定するなど広報について考えてみてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的来て下さる歌のボランティアの方に加え、行事などにも色々なボランティアの方に来ていただき、地域との交流を継続的に行う。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や訪問時を利用し、地域資源の把握に努める。また参加できる活動を見つけ、同行や送迎対応を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動においては、個々の意向もあるため個人差はあるが、参加意向のある方中心に情報収集を行った。また、事業所近辺の地域活動については、同一敷地内にあるケアハウス入居者の方を中心に参加の声かけをし、参加していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週買い物の日を個々に設定し実行していることや、病院受診への同行等しっかり支援できていると思う。 ・地域との関係が薄い方もいたり、地域資源の把握も難しいが、小さな行事やイベントに参加し地域との関係が薄くならないように出来れば良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所近辺の地域の行事やイベントに参加し、地域との交流が途切れないようにする。 ・把握した地域活動については、参加希望があれば参加できるように支援する。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かたらいの様子を地域の方にも把握していただけるよう、定期的に現状報告を行っていく。また、地域の方が興味のもてるテーマを検討し、実施に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議にて現状報告を行い、現状に対する意見をいただいた。 ・今年度の会議の中で、防災について知っていただく会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議では参加者の質問に対して丁寧な対応と意見交換ができ、地域と共に取り組もうという姿勢を感じる。 ・災害時避難場所として高齢者に施設を開放し、150人分3日分の備蓄をしているなど施設見学することができ、いざという時の安心に繋がった。 ・地域の住民は事業所を身近に感じ頼りにしている。 ・時々認知症カフェを開いて地域の方と気軽に交流できる場を設けて小規模多機能の介護サービスを知って頂く機会があればいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議で定期的に現状報告を行い、地域の方の意見を頂く。 ・かたらいの活動の様子をより具体的に伝えることが出来るように、季節ごとに発行するかたらいだよりを、会議等を通じて紹介し、感想や意見を頂き、次の活動につなげていく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と一緒に防災について考える機会を持ち、災害時の避難場所としての役割を職員も一緒に再確認していく。 	<p>推進委員の方と地域の避難場所となっている当施設の備蓄状況や避難場所などの説明を、実際に施設内を回りながら行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時避難場所を開設してくれることは、高齢者の安心に繋がっており、事業所内の見学会を開催し防災計画や備蓄の説明や実際に場所を確認出来て頼りになると思った。 ・いざという時に出来なかったという事がないように、寝たきりの方や車椅子の方の避難方法など沢山ある課題に一つ一つ対策準備してもらえたらと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かたらい会議で非常災害時の対応マニュアルの読み合わせを行い、各自で非常時にすぐに対応できるようにする。

